新宗連スローガン
信教の自由を守ろう
信仰心を広めよう
宗教協力を進めよう
世界の平和に貢献しよう

新宗教新聞

2018年（平成30年）
7月26日
第1104号

発行所
新日本宗教団体連合会
（略称 新宗連）
〒151-0053
東京都渋谷区代々木5丁目57番10号
電話（03）3468－5551〈代表〉
（03）3468－5588〈編集〉
大阪事務所 〒550-0006
大阪市西区江之子島1丁目8番21号111
電話（06）6443－7178

ユースフォーラム2018 in長崎

歴史を学び実感 平和へ歩む

新宗連青年会

新日本宗教青年会連盟（新宗連青年会、宮口弘道委員長）は7月7、8日、新日本宗教青年会九州連盟（青九連、岸和田誠委員長）受け入れにより、長崎県長崎市で「ユースフォーラム2018」を開催した。「学ぶ・感じる・つなぐ―和華蘭（わからん） ながさき 平和の一歩」のテーマの下、長崎の持つ「和華蘭」（日本・中国・オランダ）文化への知見を広げ、キリスト教弾圧の歴史や原爆の悲惨さを学び、平和への思いを新たにした。

7日午後1時、長崎市内のホテルで開会式。はじめに青九連の岸和田誠委員長と新宗連青年会の宮口弘道委員長があいさつを述べた。続いて来賓を代表して、九州総支部会長の力久道臣善隣教教主があいさつ。長崎が戦争の被害を受けた街であることに触れ、「五感を使ってしっかりと感じ、教団同士で学びを深めてほしい」と呼びかけた。

市街地に移動した一行は、20のグループに分かれ「さるく」（町歩き）を実施。さるくガイドの先導の下、原爆落下中心地から原爆資料館、平和公園を巡り、原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さなどを学んだ。

この後、原爆により破壊され、1959（昭和34）年に再建されたキリスト教カトリックの浦上天主堂で平和祈念式典を開催した。はじめに平和を祈り、黙祷。献水で、長崎市内にある諏訪神社の「御神水」を宮口委員長と岸和田委員長が祭壇前に捧げた。続いて教団別礼拝を行い、救世真教、解脱会、松緑神道大和山、崇教真光、善隣教、パーフェクト リバティー教団、妙智會教団、立正佼成会の順で各教団の様式に則り、原爆犠牲者に慰霊の誠を捧げ、平和を祈った。

参加者を代表して善隣教の力久美雪継主があいさつ。祈りの様式は違えども「平和に対する気持ちは一緒」と述べ、「これからも平和活動をがんばっていきましょう」と呼びかけた。

浦上天主堂での平和祈念式典。平和を祈り、黙祷を捧げた

「潜伏キリシタン」から信教の自由の大切さを学ぶ

8日午前9時からはホテルで、カトリック長崎大司教区・教区本部事務局長の下窄英知（しもさく）氏が講演。6月30日に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界遺産に登録されたことに触れ、「権力者が宗教を弾圧することは正当ではない」「私たちは『信教の自由』を当たり前のように考えているが、かつてはそうではなかった」と述べ、「日本二十六聖人殉教」など、長崎の地におけるキリシタン（キリスト教徒）殉教の歴史について話した。

そして「潜伏キリシタン」（『栞』参照）について、権力に屈せずに「人間の尊厳を生き抜いた」と表現し、そこに世界遺産としての「価値」があったと指摘。さらに「信教の自由」の大切さを説き、「暴力や権力に屈してはならない、屈させてはならない」と強く訴えた。

講演を受け、「グループワーク」。各自が学び、感じたこと、地元に戻った時に行いたい具体的行動について話し合い共有した。最後に参加教団の代表者らが意見や誓いを発表した。

総評で宮口委員長は受け入れの青九連をねぎらった後、前日までの豪雨により開催までに様々な困難があったことに触れ、一人ひとりの参加があったからこそ成功できたと述べ、「人の心と手と支えによって成り立った」と振り返った。

そして「学び、感じ、つないでいこうとすることが皆さんの心にあるはず」として、「感じたことを大切にして、自教団や縁のある人につなげてほしい。それが平和への第一歩になると確信しています」と閉めくくった。

この後、新宗連青年会旗が青九連から来年度ユースフォーラム受け入れの新日本宗教青年会四国連盟（青四連、永易英志委員長）に手渡された。続いて第53回「8・14式典」実行委員が壇上に並び、鈴木快彰実行委員長が「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典（8・14式典）」への参加と協力を呼びかけた。

幸実行委員長が謝辞を述べた後、参加者全員で世界の恒久平和、西日本豪雨被災地の一日も早い復旧を祈り、黙祷を捧げた。

原爆資料館での学び（7日）

8・14式典 迫る

戦争犠牲者に慰霊、供養捧げ 絶対非戦・平和実現の誓いを

新宗連青年会は8月14日夕、東京・九段の国立・千鳥ケ淵戦没者墓苑で第53回「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典（8・14式典）」を開催する。

「8・14式典」は教義や信条の違いを乗り越え、宗教協力の理念のもと、戦争の犠牲となった人々に慰霊と供養の誠を捧げるとともに「絶対非戦」と「平和実現」への誓いを新たにするもの。

式典は午後6時に開式。主催者あいさつと新宗連代表者あいさつ、献灯と折鶴奉納、新宗連代表者による教団別礼拝、各教団少年少女による合唱。「平和へのメッセージ」発表の後、平和への祈りと、戦争犠牲者に慰霊と供養の誠を捧げ、世界平和の招来を祈願する。

新宗連青年会の各地方連盟旗を掲げ、全国から届けられた折鶴を捧げ、式典には参列できない新宗連加盟教団の会員・信徒のみならず、多くの人々と心を一つにする。

参列を呼びかけるチラシ

西日本豪雨の被災地支援を―

国際救援金の勧募呼びかけ

新宗連

6月末から7月初旬にかけ甚大な被害をもたらした西日本豪雨。犠牲者は200人を超え、猛暑の中、懸命な復旧、復興活動が続けられている。

今回の豪雨災害に際し、新日本宗教団体連合会（新宗連、岡田光央理事長）は7月30日、緊急の被災地支援として「平成30年7月豪雨」に伴う国際救援金勧募を加盟教団に向けて開始した。勧募は、7月6日からの加盟教団の被災状況をはじめ被災地の行政やNGOなどの対応、支援活動についての新宗連事務局が行った情報収集を踏まえ、決定した。

救援金の拠出予定先は特定非営利活動法人アムダ（AMDA、岡山市・菅波茂代表）と被災地NGO協働センター（神戸市・頼政良太代表）、VOWS（バウズ、Volunteers of WCRP&SYL）の3団体。

アムダと被災地NGO協働センターは被災地で活動を継続中。またVOWSは2年前の熊本地震の際に、世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会と新宗連青年会（SYL）が協働で支援活動を行うため定めたチームの名称。VOWSは今年3月、熊本地震でのボランティア派遣など当初の活動計画が終了したが、今回の豪雨災害を受け、継続することとなった。

VOWSは7月17日にWCRP日本委員会の青年部会担当者と、新宗連青年会の橋本浩志事務局長を派遣し、広島県を中心に現地調査を実施。同日は安芸郡海田町の高野山真言宗・大師寺で土砂を運び出すボランティア活動も行った。この調査結果を踏まえ、広島県三原市の災害ボランティアセンターを通じて、8月上旬頃から週末を中心としたボランティア派遣を行う方向で調整を進めている。

大師寺で土のうに入った土砂を人力で運び出す（17日）

戦争体験者の話聞き

8・14式典へ心づくり

青関連 平和学習会を開催

新日本宗教青年会関東連盟（青関連、鎌形至委員長）は7月16日午後1時半から、東京・四谷の解脱会本部で「平和学習会（8・14式典事前学習会）」を開催した。

同学習会は「8・14式典」の実行委員、奉仕者の心づくりと、PRのため、首都圏在住の加盟教団青年に広く呼びかけて、毎年開催されている。今回は「私のことばで伝えたい―語り継ぐ戦争のキオク」をテーマに、加盟教団の戦争体験者14人を招き、話を聞いた。

解脱会の藤原博内務局長が受け入れあいさつを行い、参加者全員で参拝を行った。青関連の鎌形至委員長が主催者あいさつ、平和学習会の趣旨を説明した。

続いて小グループに分かれ、戦争体験者の話を聞いた。参加者は東京大空襲や学童疎開、勤労動員、終戦などの生々しい実体験の語りに聞き入り、質疑応答を交え理解を深めた。

休憩をはさみ、ワークショップ。青年らはグループを組み替えてそれぞれが聞いた話を共有し振り返った。これを踏まえ、語り継ぐべき戦争の記憶、また宗教青年として、いかに行動へとつなげていくか、議論した。発表では「式典を多くの人に伝え、お誘いしていく」「感謝の気持ちで先祖供養を行う」などの決意が表明された。ワークショップのまとめとして田野崎献太委員は「テレビや映画の世界であった戦争が、普通の人々の経験を通して身近に理解できたのではないか」と述べた。

閉会のあいさつで第53回「8・14式典」実行委員長の鈴木快彰委員は「今回の経験をそれぞれの言葉で、多くの人に伝えていってほしい」と語り、一カ月後に迫った「8・14式典」で「心を込めて奉仕させていただきましょう」と呼びかけた。

小グループに分かれ、加盟教団の戦争体験者の話に聞き入った

【訂 正】前号1面「新宗連第30期役員体制が決定」の前文1行目、「6月26日」は「6月27日」の誤りにつき、訂正しお詫びいたします。

滔々抄

戦地から帰還したRさんの話

教祖拝領の名刀、持ち主救い恩返し

連日、猛暑が続いていますが、この季節に思い出す人がいます。私が密かに「豪傑」と尊敬していた人のお話です。

30年前、近くに在る神社でのお祓いを頼まれた時、急に「若先生、まだ嫁さんもらわないのかい」と話してきたのが、戦前の当院に勤めてたというRさんでした。

真面目な性格のRさんは加納包球教祖に気に入られ、近衛師団臨時動員として出征時に教祖から軍刀を賜ったとのこと。蔵に有った数振りから選べと言われ、実際に振ってみて一番バランス良く感じたのを戴いたそうです。

刀身が錆びていたので、旭川の砥ぎ屋に出すと、「関之住人・兼元」の銘があり、柄糸と鞘を新調し満州に出征しました。

ある日、敵陣近くに野営した時、腰に着けていた刀の鞘がカチャカチャと鳴り出しました。「R、うるさいぞ！」「上等兵殿、自分は何もしていないのに刀が鳴るのです」「そんな訳があるものか！」。

鞘鳴りは止まらず、小隊はそこより敵に分かり難い場所に移動しました。すると先ほどまで居た場所に敵の銃撃が…。こちらの被害は皆無で反撃は大成功でした。そんな不思議が何回か続いて、「Rの刀が鳴ったら敵襲だ」と評判になりました。

Rさんは刀に無限の信頼と愛情を覚え、心身の鍛錬と共に従軍し、最後はインド東部アンダマン諸島で終戦を迎えます。帰還の船に武器を乗せることは許されず、名刀は海に沈めたそうです。

昭和21年6月19日に帰還後、教祖に経過報告をしました。「拝領の刀に救われましたが、その業物（わざもの）を棄ててしまい誠に申し訳ありません」。すると当時82歳の教祖は「私は近衛兵連隊銃工長を勤めたが、後輩のお前が無事に戻って何よりだ。蔵に眠っていた刀も、蘇らせてくれたRに恩替（おんがえ）しをしたのだろう」と答えたそうです。

その後、Rさんは見事な方法で、お嫁さんを娶（めと）るのですが、それは別の機会に…。（加納理孝・加納太霊教院院長）

潜伏キリシタン 日本では、豊臣秀吉の時代からキリスト教は弾圧され、1597（慶長元）年には長崎での宣教師と信者が処刑された「日本二十六聖人殉教」などが起こった。江戸時代には「禁教令」によってキリスト教信仰は禁止され、仏教徒に強制改宗させられるなど、さらに取り締りが厳しくなった。キリスト教徒の中には、表向きは仏教徒として振る舞いながら、密かにキリスト教の信仰を続けていた人々がいた。この人々を「潜伏キリシタン」と呼び、禁教令が実質無効となる明治時代まで代々信仰を伝え続けた。（1面）

宗教をめぐるさまざまな問題のご相談窓口
宗教もしもし相談室
03 3466-9900
受付●月曜→金曜／正午→午後4時
公益財団法人 新日本宗教団体連合会

解脱会伝記編纂委員会編
新版 解脱金剛伝 全3巻
A5判 上製函装 定価3000円（税込み）
世相善導、人心救済への道筋を説かれた解脱会金剛（岡野聖憲）の生涯を全1549頁、3巻に収めた。会祖亡き後、その人格に触れて自らの内に深い帰依心を培い、世のため人のために生きるための学びの土台となる書。第1巻＝生誕から事業の失敗、大成を経て宗教の世界に目覚めていく前半生を描く。第2巻＝昭和4年に立教して以来、人心救済の道一筋に生き、教えの土台を完成するまでの事績を辿る。第3巻＝戦時下の厳しい時代の中で縦横無尽に教えを説き、救済活動を展開し、遷化されるまでの歩みを記す。
解脱会
〒160-0007 東京都新宿区荒木町4番地
TEL 03-3353-2191(代表) Fax 03-3353-3055

清文社
宗教法人の税務調査対応ハンドブック〔宗教法人税制と法制の解説を含めて〕
石村耕治 編 A5判3780円
平成25年からの新・税務調査手続にも対応！
宗教法人と税務調査についての基礎知識を中心に整理し、コンパクトに解説した、実務家・宗教関係者必携の一冊。
公益財団法人 日本宗教連盟推薦！
〒101-0047 千代田区内神田1-6-6
☎03(6273)7946 FAX03(3518)0299
http://www.skattsei.co.jp〈価格税込〉

芸術生活社【芸生文庫】
高齢期を快く生きるための“人生の道しるべ”
老春誦歌（ろうしゅんおうか） 長生きの秘訣
御木徳近著 パーフェクト リバティー教団第二代教祖が、宗教家として悟りと長い人生経験、多くの人との出会いから、高齢期を心豊かに暮らすための新しい生き方を提唱する。■定価700円（税込）
〒150-0047東京都渋谷区神山町16-1
電話03-3469-1153 FAX03-3465-6867

南雲堂
美容と健康寿命の秘策！
認知症予防★お口の体操
『みんな笑顔、みんな元気！』DVD
監修・作詞：太田哲二 作曲：森重恭典／歌・実演：恵中瞳
（体操解説・歌詞収録のブックレット付）
定価（本体2000円＋税）
●収録内容（歌と体操の実演）
▣アッカンベー体操／舌の動きや首を回して、筋肉を活性化させて、リンパの流れを良くする。▣パタカラ体操／魔法の言葉『パ・タ・カ・ラ』を使って口を大きく動かして脳に刺激を与え、認知症予防！▣ラップ・ラップ体操／早口言葉や落語の寿限無をラップのメロディにのせて歌うことで手・眼・口・全身の運動機能を向上させる。
〒162-0801 東京都新宿区山吹町361
☎03-3268-2311 FAX 03-3260-5425
http://www.nanun-do.co.jp/

佼成出版社
「宗教者の役割」「信仰の本質」を問う異色の評伝
〈大逆事件〉と禅僧内山愚童の抵抗
眞田芳憲
四六判／240頁 本体2000円＋税
日本近代史における最大の思想弾圧「大逆事件」に連座し、刑死した禅僧・内山愚童（1874～1911年）。社会主義者、無政府主義者としてこれまで語られがちであった愚童の思想と行動を、本書は仏教者としての側面から仔細に検証。その知られざる実像を明らかにする。
〒166-8535 東京都杉並区和田2-7-1
☎03(5385)2323 FAX03(5385)2334
http://www.kosei-shuppan.co.jp/

白馬社
合掌ができない子どもたち
浄土真宗本願寺派福賢寺住職 三上章道
四六判 定価1260円
「本願寺新報」の編集長を二十年に亘って務めてきた著者が、合掌ができない子どもたちとの出会いを契機に、戦後の日本社会が戦慄すべき「薄縁社会」となったプロセスを追い、その原因が宗教心の喪失にあることを解き明かす。そして新たに現出した「原発問題」にも、同根の「原因がある」ことを洞察していく。日本人の心の問題にするどく迫り、根本的解決への提言をまとめた必読書。
〒612-8469 京都市伏見区中島河原田町28-106
TEL 075(611)7855 FAX 075(603)6752
http://www.hakubasha.co.jp 価格税込

ハーベスト社
「世界救世教」に関する初めての本格的研究
療術から宗教へ
世界救世教の教団組織論的研究 隈元正樹著 本体価格3000円＋税
浄霊と称する療術で、第二次世界大戦以後に教勢を伸ばした世界救世教を事例として、呪的宗教の組織化を中心とした教団統合の問題を明らかにする。
近現代日本の宗教変動 実証的宗教社会学の視座から
寺田喜朗・塚田穂高・川又俊則・小島伸之編著 本体価格3800円＋税
西東京市向台町2-11-5
Fax042-467-8661 TEL042-467-6441

緊急出版 カトリック大阪教区神父 西山俊彦
平和憲法が平和への道、改憲は戦争への道
―わたしたちが核戦争の加害者とならないために―
世が平和ボケにあろうとも、一時すでに遅し」と後悔しないために、平和憲法の真価を見直す素養まで捨てるわけにはいかない。
●1400円＋税 四六判並製
248頁 ISBN 978-4-286-19691-6
文芸社
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1
☎03-5369-2299 FAX.03-5369-3066
https://www.bungeisha.co.jp
書籍のご注文はお近くの書店またはブックサービス☎0120-29-9625、ネット書店まで

日本の政治状況と課題とは

倉重篤郎氏（毎日新聞社専門編集委員）が読み解く

新宗連政治委拡大学習会

新宗連政治委員会（政治委、宮本惠司委員長）は7月4日午後3時から、東京・代々木の新宗連会館で「拡大学習会」を開催した。

講師に毎日新聞社専門編集委員の倉重篤郎氏を招き、「政局を読み解く―日本の政治状況と今後の課題」のテーマのもと、安倍政権や野党の現状分析、日本政治の諸課題について学んだ。

倉重篤郎氏

倉重氏ははじめに「大局からみると、安倍政権はたそがれの時期にある」と述べ、森友・加計学園問題の長期化や、安倍首相の思い通り進まない憲法9条改正、ロシア・中国・北朝鮮など外交の手詰まり、さらに「賞味期限切れ」となってきたアベノミクスなどを挙げ解説した。

こうした翳りがみえる安倍政権だが、倉重氏は「それでもなお安倍強しといえる側面がある」と分析。その理由として、安倍首相の強運に「昭和の妖怪」と評された祖父、岸信介の孫としての隔世遺伝説、現実主義と自民党のガバナンス（統制、管理）を敷いた老獪さ、自民党内の基盤の強さ、野党分裂などを挙げた。

自民党総裁としての「安倍三選」については、「党内では数の上からみれば優位」としながらも、波乱要因として、党内でも地方では森友・加計学園問題の批判が強く面従腹背のガスが充満していることや、北朝鮮による日本人拉致問題、岸田文雄政調会長はじめ総裁候補2・3・4位の派閥連合の動きなどを挙げ、安倍三選は予断を許さない状況にあることを指摘した。

また、野党再編成については、保守2党、リベラル連携、連合か共産党かなどの要素を説明し、「枝小志（枝野幸男・小沢一郎・志位和夫）」の動きが今後を左右するとした。

さらに歴史の転換期における日本政治の課題として、戦後の政治の転換期を振り返りつつ、安保環境や政治体制、経済構造、国体など多角的な視点から多くの課題を挙げた。講演後、質疑応答を行い、憲法改正の行方や宗教と政治の在り方などで意見を交わし、学びを深めた。

拡大学習会前には第30期第1回政治委員会を開き、平成30年度の活動などについて意見交換を行った。

新宗連 総支部協議会

認知症高齢者に共感し尊厳を

神奈川県協 平和学習会でバリデーション学ぶ

神奈川県協議会（土田均議長）は6月24日午後2時40分から、横浜市の立正佼成会横浜普門館で「平成30年度平和学習会」を開催。「認知症高齢者に共感と尊厳を―バリデーションへの誘い」をテーマに、関西福祉科学大学教授の都村尚子氏が講演を行い、認知症高齢者の尊厳を尊ぶ接し方についてわかりやすく解説した。

都村氏が相手の感情表出を手助けするバリデーションの手法を解説

開会にあたり、土田均議長があいさつ。2004（平成16）年から「痴呆症」を「認知症」と言い換えるようになった経緯や、認知症を患った義母の例を挙げ、「こうした方々の悩み、苦しみを理解していくことが必要です」と、平和学習会のテーマ設定について説明した。

都村氏が登壇し、講演に移った。はじめに「バリデーション」とは、認知症高齢者とのコミュニケーションを通して感情レベルに訴える対応方法であることを説明。アメリカのソーシャルワーカー、ナオミ・ファイル氏が創始し、都村氏は来日したファイル氏の講演を聞き共感し、理論を学び実践に取り組んできた経緯を述べた。

そしてスイスの精神科医ユングの「無視をされた猫はトラになる」との言葉を引き、認知症患者はつたないながらコミュニケーションを取ろうとするが、それが無視あるいは薬物療法で抑制されることが続くと、他者を拒否する行動をとると解説。

都村氏は「認知症のお年寄りの行動には理由があります」と述べ、認知症高齢者にバリデーションの手法である傾聴と共感、受容、ペースを合わせるなどの態度で接しコミュニケーションを取っていくと、相手は感情や欲求を表すようになるという。

実際に介護施設で職員を拒否していた認知症の高齢者が、都村氏と接するうちに自身の人生を語り出すなどのテレビ番組映像も紹介し、バリデーションの手法と効果をわかりやすく説明。「バリデーションは相手が感情を表出する手助けをし、何を訴えているのかのニーズを理解し、その人にとっての『未解決問題』を解決する手助けをするもの」と述べた。

質疑応答では、認知症高齢者となった親への接し方、介護者のストレスなどの質問が続き、身近で深刻な課題であることが伺えた。

講演後には恒例となった、佐藤公昭氏のフルート演奏と川島江津子氏によるピアノ伴奏で参加者らが「花は咲く」を合唱し、会場はなごやかな雰囲気に包まれた。

来賓あいさつを神奈川県宗教連盟理事長の古川勉氏、謝辞を平和学習会実行委員長で新宗連神奈川県協議会副議長の齊木淑江氏が述べ閉会した。会場では、今年も新宗連国際救援金への募金が行われた。

沖縄戦の歴史学び慰霊供養

新宗連青年会 「沖縄慰霊の日―代表参列」

新宗連青年会

新日本宗教青年会連盟（新宗連青年会、宮口弘道委員長）は6月23日、「沖縄全戦没者追悼式」に合わせ、「沖縄慰霊の日―代表参列」を派遣した。

この日は、先の大戦の沖縄戦で組織的戦闘が終結した沖縄の「終戦の日」にあたり、県主催の追悼式のほか、各地で遺族らを中心に慰霊・供養が行われた。

新宗連青年会は、沖縄の日本復帰をはさんだ1969（昭和44）年から73（同48）年にかけて「沖縄問題研究セミナー」を開催。2008（平成20）年からは「沖縄慰霊平和使節団」として、ほぼ毎年「沖縄慰霊の日」に合わせ、使節団を派遣してきた（6月23日を行程に含めたのは2013年の第5回まで）。

平成29年度から、使節団の派遣は隔年とし、「沖縄慰霊の日」には青年会委員の代表者を派遣することが決定され、昨年に続き2回目の「代表参列」となった。宮口弘道委員長と宮本泰克委員、齋藤侑助委員が参加した。

23日午前9時過ぎ、糸満市摩文仁の平和祈念公園に到着した一行は、沖縄平和祈念堂を参拝。この後、沖縄県平和祈念資料館を見学し、あらためて沖縄戦と戦後復興の歴史を学んだ。

午前11時50分から、沖縄全戦没者追悼式に参列し、正午に合わせ、黙祷を捧げた。

午後は、那覇市のパーフェクト リバティー教団（PL）沖縄教会と浦添市の立正佼成会沖縄教会を訪問し、それぞれ遠藤源四郎教会長（新宗連沖縄県協議会議長）、長沼克宗教会長（同事務局長）と懇談し、読谷村に向かった。

午後4時過ぎ、チビチリガマに到着。ここでは住民の「集団自決」が起こり、83人が亡くなった。昨年9月、地元の少年らに荒らされるという事件があり、あらためて慰霊のため訪れたもの。

この後、同日オープンしたばかりの「世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアム」を訪問。チビチリガマの集団自決を再現したジオラマ展示を見学し、同地の歴史・民俗についても理解を深めた。

正午に合わせ、黙祷を捧げた

新宗連 青年会

信仰体験発表と専修寺参拝

青中連 ピースフォーラム.in三重

新日本宗教青年会中部連盟（青中連、高木寿委員長）は6月23、24日、三重県津市で「ピースフォーラム2018in三重」を開催した。今回は新宗連スローガンの一つ「宗教協力を進めよう」に着目し、教団間の理解を深める企画とした。

23日午後1時半から立正佼成会津教会で開会し、松井一貴青中連事務局長があいさつを行った後、プログラムに入った。レクリエーションや自己紹介を行った後、「新宗連の歴史と意義」を橋本浩志新宗連青年会事務局長が解説し、プログラム「私の信仰体験」に移った。同プログラムは、今回参加した、PL、福聚の会、妙智會教団、立正佼成会の順に代表がそれぞれの信仰体験発表を行うもの。発表の中では、教えの実践を通して自分の心が変化し、周囲との関係性が変化したことや、心を磨くために教えがあること、幸せは自分の心次第であることなどが各自の体験を交えて発表され、班別に話し合いを行った。

24日は午前7時から真宗高田派本山専修寺の朝の勤行に参列し、専修寺の周囲に形成された「一心田寺内町」をボランティアの案内で見学した（写真）。この後、専修寺の参拝プログラムに合流し、御影堂や如来堂、宝物館などを見学した。

再び立正佼成会津教会に戻り、第53回「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典（8・14式典）」に奉納する各県委員会からの千羽鶴の「献納式」を行った後、感想発表を行い、三重県委員会の真弓昭委員長が閉会あいさつを行った。

人権問題の広がりふまえ

部落解放・人権研究所 創立50周年記念式典

一般社団法人部落解放・人権研究所（奥田均代表理事）は6月21日午後1時半から、大阪市港区のホテルで創立50周年記念式典を開催した。

部落解放・人権研究所は部落解放同盟大阪府連合会、研究者、大阪府、大阪市、大阪府と大阪市の同和事業促進協議会等が中心となって1968（昭和43）年8月、大阪部落解放研究所として創立。70（同45）年には、全国的な役割を担うことに伴い、部落解放研究所と名称変更した。74（同49）年に社団法人となり、98（平成10）年12月には、部落問題を中心に広く人権問題を研究してきた実績と人権の21世紀を展望して現在の名称に変更。2013（同25）年に内閣府認可の一般社団法人となり、現在に至っている。

開会セレモニーでは、奥田均代表理事が「50周年は汗と涙の結晶である」と述べた上で「研究所の行く末を皆様と語り合う機会にしたい」とあいさつ。来賓として部落解放同盟中央執行委員長の組坂繁之氏、部落解放同盟大阪府連合会執行委員長の赤井隆史氏が祝辞を述べた。

この後、2018年度総会を開催し、前年度の事業報告並びに決算と、18年度事業計画、予算などを決定した。50周年の歴史を支えた功労者表彰に続き、午後4時から、「部落解放・人権研究所の『これまで』と『これから』」をテーマに記念座談会を開催した。

大賀正行名誉理事と友永健三名誉理事、寺木伸明元理事長、奥田代表理事の各氏が、理事や理事長として担当した時代に沿って、研究所の歴史や実績を順番に述懐した。

4氏は、解放同盟による実践と研究所の理論構築という両輪関係とそれぞれの役割、国際的視点の導入、部落問題を軸にした反差別・人権の研究、大阪府と大阪市からの補助金全面カットに伴う運営体制の改革など、半世紀にわたる歩みを振り返った。

また、研究所の「これから」について、人権問題の多彩な広がりの中で「部落解放論」をどう位置付けていくか、各種団体との交流や連携強化、「部落差別解消法」の具体化、人権に関わる重要課題に対する声明やパブリックコメントの発表など、各氏から提案された。

奥田代表理事は「50周年は汗と涙の結晶」とあいさつ

【諸会議 報告】

新生復興祈念集会を振り返り 教化活動懇談会の概要固まる

企画委

新宗連企画委員会（企画委、田澤清喜委員長）は7月5日午後3時から、東京・代々木の新宗連会館で第30期第1回委員会を開催した。

5月16、17日に岩手県で開催した「第5回新生復興祈念集会」について振り返りを行い、今後の活動について意見交換を行った。

続いて「第3回教化活動懇談会」について協議を行い、9月12日に開催することを申し合わせた。また、平成30年度全国総会については、会場となる熊本市へのアクセスなどの都合上、午後2時から開会することを申し合わせた。

法人運営の諸課題について 意見交換、調査研究進める

宗法研

新宗連宗教法人研究会（宗法研、仙波達治座長）は7月9日午後3時から、東京・代々木の新宗連会館で平成30年度第2回幹事会を開催した。各教団から法人運営上の様々な問い合わせが寄せられていることを受け、意見交換を行った。今後、幹事会で諸課題を整理し、調査研究を進めていくとともに、次回拡大宗法研に向けて準備を進めていくことを申し合わせた。

幹事研修セミナー・定例協議会―思親会本部で開催

同推協

新宗連同和推進連絡協議会（同推協、大滝晃史代表幹事）は7月9日、神奈川県伊勢原市の思親会本部で幹事研修セミナーと平成30年度第2回定例協議会を開催した。

午後2時、思親会本部大宮殿に到着した参加者は、7月15日の盂蘭盆施餓鬼大法要に向けて多数の提灯が飾られた聖神壇前で、同推協幹事で思親会理事の檜山学氏から、教団の沿革や礼拝対象、井戸清行開祖（思親清行大士）のあゆみ等の説明を受けた。引き続き、広大な境内地内にある常不軽菩薩像や慈母観音像、開祖霊廟、仏舎利塔、瑞龍神殿等を巡拝した。

午後3時半から、平成30年度第2回定例協議会を開催。新宗連の第30期役員改選のほか、『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議（「同宗連」）、同和問題にとりくむ大阪宗教者連絡会議（大宗連）の活動、部落解放・人権研究所50周式典等の報告後、平成30年度の拡大テーマ研究会について審議し、LGBT（性的少数者）の問題をテーマとして講師選定を行い、9月以降に開催することを申し合わせた。

田中恆清理事（神社本庁総長）が新理事長に就任

日宗連

日本宗教連盟（日宗連、芳村正德理事長）は6月28日午後4時から、東京都港区の明治記念館で平成30年度第2回理事会を開催した。

芳村正德理事長が議長となり、はじめに平成30年度の理事長の選定について審議を行った。審議の結果、田中恆清理事（神社本庁総長）を新理事長に選任。また、平尾朝典幹事（神社本庁渉外課課長）が新事務局長に就任した。

理事会に先立ち午後3時から開催した評議員会では、平成29年度事業報告と同決算案を審議し、それぞれ原案通り承認した。

平和学習会―5協議会で開催

全国の総支部・協議会で開催している「憲法改正と国民投票」をテーマとする平和学習会。

7月は、埼玉県協議会（6日、さいたま市、講師＝佐原透修新宗連事務局長）、長野県協議会（8日、松本市、講師＝伊藤真弁護士、大滝晃史新宗教事務局次長）、新潟県協議会（22日、新潟市、講師＝伊藤弁護士、山田匡男新宗連総局長）、山形県協議会（同日、山形市、講師＝佐原事務局長）、釧路地区協議会（25日、釧路市、講師＝佐原事務局長）以上の5協議会で開催した。

暑中お見舞い申し上げます

宗教法人 阿吽阿教団本部教会
東京都港区高輪二丁目一番十三号
電話（三四七三）〇五二八番

宗教法人 大神教
〒633―0001 奈良県桜井市三輪一一九八
電話 〇七四四―四二―六〇五七
管長 西野新也
副長 西野延和

宗教法人 神ながら教
教主 水野富久子
役員 一同
名古屋市東区徳川一丁目15番18号
電話（九三五）〇一三八

宗教法人 救世真教
会長 新井光興
顧問 新井三知夫
群馬県高崎市箕郷町中野二九二
電話〇二七―三七一―三六三九
FAX〇二七―三七一―七一三二

宗教法人 現證宗日蓮主義佛立講
講主 上村日正
〒513―0809 三重県鈴鹿市西条二丁目三―六
電話 〇五九（三八二）〇四四一
FAX 〇五九（三八二）〇四四一

解脱会
法主 岡野英祥
長老 岡野聖法
理事長 渡辺孝彦
〒160―0007 東京都新宿区荒木町四番地
電話 〇三（三三五三）二一九一
FAX 〇三（三三五三）三〇五五

宗教法人 摘営界教団
法主 林玄光
大阪府交野市都津三丁目四十七番十三号
電話（〇七二）八九一―一一五八

大正三年創立
宗教法人 加納太霊教院
院長 加納理孝
〒074―1273 北海道深川市音江町音江七五七番一号
電話 〇一六四―二五―一七八六
FAX 〇一六四―二五―一七九〇

円応教
教主 深田充啓
理事長 赤銅重夫
兵庫県丹波市山南町村森一―一
電話〇七九五―七七―〇四三〇（代表）

（50音順）

立教百年 松緑神道大和山
教主 田澤清喜
代表総務 鈴木武幸
青森県東津軽郡平内町外童子字滝ノ沢一二ノ一三

思親会
会長 飯島法道
二五九―一一〇二 神奈川県伊勢原市子易一四五九
電話〇四六三）九二―三一一一（代）

修養団捧誠会
総裁 出居徳久
会長 早山徹
東京都豊島区池袋本町三丁目一一―一
電話 〇三（三九七一）一四九三

立教百年祭　3日間にわたり執行

教祖の遺徳を称え 先達に感謝

本部聖地で来賓・信者らと共に寿ぐ

円応教

荘厳された真殿で、深田教主が主導師を務め「おつとめ」を行った（15日）

はじめに、信者と共に立教百年祭を迎えられたことに感謝の意を述べると共に、「百年を迎えられたのは教えのお陰でもあるが、御教祖様に直接師事された先達の先生方のお陰でもある」と、重ねて感謝の意を表し先達への思いを馳せた。

また、深田千代子教祖が1919（大正8）年7月16日に「神の使いしめに生まれ、世の中の道具になる」と天啓を受け、宗教活動を開始したことを説明し、その上での遺徳を称えた。その上で「桜珠（教祖の霊気漂う数珠）」に触れ、「御教祖様の眠る桜の木の根元から、魂が脈々と続いているものであり、それと共に行じていただきたい」と述べ、立教の本義である「世の中の道具になる」ことが教えの根幹であり、多くの人に喜び、楽しさを与えていくことが大事と語った。また「時は刻々と流れる。立教百年を迎えた今、これからは101年に向けて共に精進させていただきましょう」と力強く呼びかけた。

この後、妙智會教団の宮本法嗣から贈呈されたこも樽で鏡開きが行われ、その御神酒を、深田教主が作成した夏茶碗に自らが注ぎ、深田惠子恵主をはじめ三姉妹が献酒を行った。

続いて教祖が月のきれいな夜に天啓を受け、霊力を授かったことにちなみ、深田教主が一株一株丹精込めて育てた「月下美人」の鉢植えを抽選で当選した教会に贈呈した。

最後に、参列者と共に立教百年祭歌の「御教祖とともに」と「立教記念祭歌」を斉唱し、教団基本方針と立教百年祭スローガンを奉唱した。

また15日は午後3時から、本殿礼拝所で「円応祭り」が賑やかに営まれ、午後5時からは、青年会館3階で来賓を招いての「立教百年祭祝賀パーティー」が盛大に催された。

3日間を通して、新宗連加盟教団からは庭野日鑛立正佼成会会長夫妻、岡田光央崇教真光三代教え主、力久道臣善隣教教主、保積志胤大和教団統理、田澤眞佐子松緑神道大和山第二代教主令室、原眞事パーフェクト リバティー教団元教師夫妻、酒井教雄佼成学園顧問、また山田匡男新宗連総局長らが出席し、立教百年を寿いだ。

深田教主夫妻、来賓らで鏡開き

円応教（深田充啓教主）は7月14から16日までの3日間、兵庫県丹波市の本部聖地で「立教百年祭」を執り行った。

15日正午からの記念式典は本殿で、赤銅重夫理事長による「開会宣言」に続き、テノール歌手の加藤ヒロユキ氏が「御教祖とともに」を奉唱。この後、円応教史「円応教立教百年の歩み」の上映、9人の女性の信者による献花・献饌・献茶の「献上の儀」が行われ、真殿を荘厳した。深田充啓教主が入場し主導師を務め、参列者とともに「おつとめ」を行った。

祝電披露に続き、来賓紹介。来賓を代表して、大本の出口紅教主と妙智會教団の宮本惠司法嗣、立正佼成会の川端健之理事長の3氏が祝辞を述べた。

深田教主が「御親教」。

三つの世を整え 社会浄化へ

禊祭を執行　大和教団

大和教団（保積秀胤教主）は6月24日午前9時半から、宮城県仙台市の大國神社で「禊祭」を執り行った。

晴天のもと、大鳥居前に参集した副斎主の保積志胤統理と祭員らは、修祓の後、法螺貝の音色とともに「天地一切清浄大神業」と奉唱しながら、本殿に向かい参進した。

斎主の保積秀胤教主が本殿神前に入座後、「開祭詞」が告げられ、斎主が「招神」。拝礼の後、斎主が「本祭祝詞」を奏上した。

参列者は本殿大前庭へ移動、前庭に設置された火壇に副斎主が点火。「五段大祓之神事」などに続き、参列者が輪となり、「鳥船神事」を挙行。

前庭に設置された火壇に副斎主が点火

続く「神人和楽おはやし行事」では、祭員と御幣を奉持した教信奉者が「惟神神言」を奉唱しながら、「御神柱」と火壇の回りを三度回り神威を拝受した。本殿に戻り、「神徳称賛祝詞」奉唱後、斎主らが玉串拝礼を行った。

閉祭後、保積教主が「お言葉」。「大和教団では水無月に神々がお集まりくださる」と述べ、「目には見えませんが、この6月と12月の晦日の時期はいのちのよみがえりの日」と禊祭の意義を伝え、神界・現界・霊界という三つの世を整えることにより、社会浄化に努めていくことの大切さを説いた。

そして日々、祈りと感謝の実践として「1日15分でもいい、神様への奉仕をしてください」と述べ、生活の中に信仰を入れていくことの功徳と、自分の周囲にあるものすべてに「感謝」の言葉をかける具体的実践行を伝えた。

この後、「御神柱」にて「散餅散銭之儀」を行い、保積教主や祭員により、参列者に副餅・副銭が撒かれた。

一丸となり苦難に立ち向かう

夏季大祭を斎行　摘営界教団

摘営界教団（林玄光法主）は7月8日午前9時半から、大阪府交野市の本部紫雲山光明閣で「夏季大祭」を斎行した。

開式の鐘が打ち鳴らされ、斎主の林玄光法主に続いて、斎員が入座。斎員が「御降神諄詞」を奏上し、「祓戸の御式」では供物や神前の東西、参列者に対し、斎主が修祓を行った。各斎員による「珍納比都宜之大神諄詞」「産土之大神諄詞」「幽冥界之大神諄詞」「龍雲紫光真霊諄詞」の奏上に続き、斎主が「夏季大祭諄詞」を奏上した。

斎主の先導で参列者が「朝夕礼拝諄詞」を奏上。

林法主が「日常勤行要文」を奉読

続いて、斎主が参列者に向かって「日常勤行要文」を奉読した。

林法主は「感謝箱」祈念の後、教話に立ち、「先日の大阪の地震の時、信者の方が何よりも本部の事を心配し、電話してくれたことをとてもありがたく思う」と感謝の意を述べた。そして被災した事について「これをどう受け取るかではなく、教団、信者が一丸となり苦難に立ち向かい、取り組むことがとても大切です」と協力、助け合うことの大切さを説いた。

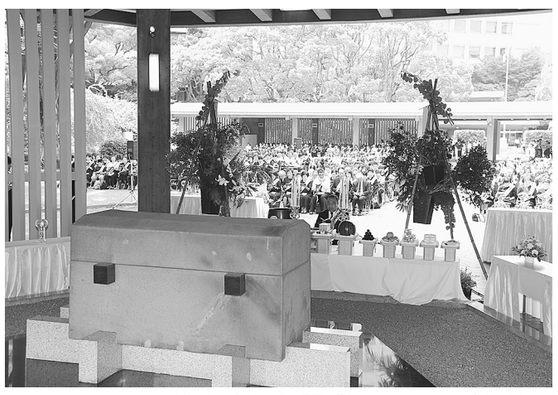
「奪う根性」取り除く修行を

うら盆供養　妙智會教団

妙智會教団（宮本惠司法嗣）は7月14日午前、東京・代々木の本部をはじめ、各教会・道場で「うら盆供養」を執り行い、午後には東京・九段の国立・千鳥ケ淵戦没者墓苑で「戦没者うら盆供養」を併せて行った。

宮本ミツ会主が「毎日がお盆」と説いたように、先祖供養を根本教義とする同教団では、この日を、宮本丈靖大導師が指導した「一年一回の総供養の日」としている。また、会主は「戦没者は国の先祖」とも説いたことから、戦没者の供養も併せて行っている。

「本部うら盆供養」は午前10時に開式。玄題三唱に続き、献灯・献華・献供の儀が厳かに行われた。


宮本法嗣を導師に読経供養（千鳥ケ淵戦没者墓苑）

導師の宮本惠司法嗣が入殿し、「ご祈願」。この後、参列者一同で読経供養した。会員代表が体験発表を行った後、宮本法嗣が「ご指導」。祈願の中でも触れた西日本豪雨の被害に対して、日本赤十字社に「義援金」を拠出したことを報告。

宮本法嗣は「先祖供養は一方通行ではいけません。私たちがご先祖さまを想い、そしてご先祖さまが私たちを見守っていることを感じたら、さらにお経を上げる。こうしたやりとりを通じて、真の供養ができるのです」と指導した。

午後1時からは、千鳥ケ淵戦没者墓苑で「戦没者うら盆供養」。献灯・献華・献供の後、宮本法嗣を導師に一心に読経供養を勤めた。そして参列者一同で小学唱歌「ふるさと」「夕やけ小やけ」を斉唱した。宮本法嗣があいさつに立ち、「戦争の原因の一つは奪う根性。この奪う根性を取り除く修行が大切です」とさらなる精進を呼びかけた。

御霊鎮めを祈願

光霊殿例祭　松緑神道大和山

松緑神道大和山（田澤清喜教主）は7月13から17日にかけて、青森県平内町の本部光霊殿において「立教百年光霊殿例祭」を4回にわたって執り行った。

13から16日までの合祀祭は午後5時に開式し、はじめに鈴木武幸代表総務が式辞を述べた。

続いて祭主の田澤清喜教主が入場し、修祓の後、遺骨奉安に続いて献饌。聖歌「葬送歌」を奉唱後、祝詞奏上となり、祭主が「成仏祈願の祝詞」で新たに納骨合祀された御霊の平安を祈った。続いて玉串が奉奠され、聖歌「霊鎮めの歌」を奉唱して閉式。

この後、合祀に入り、担当祭員と各遺族の手によって、奥津城深くに遺骨が納められた。

また、14から17日までの慰霊祭は午前9時に開式し、はじめに鈴木代表総務が式辞を述べた。続いて祭主の田澤教主が入場し、修祓、献饌と進み、聖歌「霊鎮めの歌」を奉唱後、祝詞奏上した。

合祀祭では、新たに納骨された御霊の平安を祈願

「御霊鎮祭祈願の祝詞」の中で、祭主と教団役員が交代で物故者名を奉読する中、参列者が焼香を行い、御霊鎮めを祈願した。玉串奉奠の後、聖歌「永久の輝き」を奉唱し、慰霊祭を閉式した。

鎮魂の祈り捧ぐ

第7回東日本大震災物故者慰霊洋上供養

7月13日午前10時から、福島県いわき市の江名港で「第7回東日本大震災物故者慰霊洋上供養―復興への祈り」が開催された。主催は同供養賛同者会。

はじめに賛同者会を代表して、カトリックさいたま教区被選司教の山野内倫昭氏があいさつ。同供養の意義に触れ、「素晴らしい祈りの共同体体験を味わっている」と振り返った。また共に祈ることができるのは参加者に「日々に祈りの姿勢があるから」と述べ、「自分のためだけでなく、周りの人のために祈り、助け合えるように」と参加者に呼びかけた。

続いて来賓を代表して元法務大臣で前参議院議員の岩城光英氏があいさつ。この後、来賓紹介、式電披露が続いた。

「鎮魂の祈り」を捧げ、参列者は隣人同士で手をつなぎ、東日本大震災の犠牲者の平安を祈って黙祷を捧げた。続いて天台宗・会津薬師寺住職の筒井叡觀氏が「供養文」を奏上。この後、筒井氏が祭壇前に設置した護摩壇で「護摩供養」を行う中、各宗教者が、それぞれの様式に則って礼拝を行った。

漁船に乗船した一行は港から沖合に向かい、船上で流水灌頂（供養）並びに供養紙散華を行い、津波犠牲者に祈りを捧げた。

謝辞に立った立正佼成会磐城教会長の澤邊雅一氏は、東日本大震災以降も様々な災害が発生していることに触れ、「困難に立ち向かうためには手を携え祈り、苦しみを分かち合いながら、心一つに一歩ずつ歩んでいくことが大切」と述べ、「身近な場から、安らぎの輪を広げていくことが、何よりの供養」と説いた。

供養紙散華を行った

最後に復興支援ソング「花は咲く」を全員で合唱し、閉式した。

暑中お見舞い申し上げます
（50音順）

宗教法人 天顕山 晃妙寺
住職 松本晃芳
役員一同
大阪府枚方市招提平野町四ノ一四
電話 〇七二―八五七―七四五六番

天光教總本部
大阪市天王寺区東上町八番十四号
電話代表大阪〇六（六七七一）三八八番

一人ひとりが
神と出会い
一人ひとりが
神を現わす
玉光神社

大日如来様御奉戴の
宗教法人 大法輪台意 光妙教会
大日如来様御聖業奉讃会

大慧會教団（だいえかいきょうだん）
〒599-8126
大阪府堺市東区大美野142―14
TEL 072(236)1601
FAX 072(237)3107
URL http://www.daiei-kai.jp

善隣教
聖主 力久隆積
教主 力久道臣
福岡県筑紫野市原田
電話〇九二(九二六)一〇一〇(代)

人にしんせつ 地球に感謝
宗教法人 真生会
会長 田中庸仁
理事長 田中啓三郎
総本山真生寺
住所 岐阜市彦坂一七八
電話 〇五八(二三五)七三〇四

一切を生かす 大和教団
教主 保積秀胤
統理 保積志胤
総監 平松千明

天恩教
教主 鉢呂神龍
理事長 鉢呂金太郎
〒619―1301
京都府相楽郡笠置町大字有市小字西狭間一番地
電話〇七四三)九五―二七八六

宗教法人 大日然教

宗教法人 祖神道教団
祖神 吉岡優
天宮神宮 西宮市山口町船坂一三一九
TEL 〇七八(九〇三)二〇〇二

宗教真光
SUKYO MAHIKARI
〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町 2-596-1
TEL 0577(34)7008

ハワイ日蓮宗住職が相互尊重の大切さ語る

三浦半島宗教者平和会議 第36回世界戦没殉難者追悼・平和祈願式典

三浦半島宗教者平和会議（議長＝土田宗英大椿寺住職）は7月7日午前9時40分から、神奈川県横須賀市の横須賀市文化会館で「第36回世界戦没殉難者追悼・平和祈願式典―東日本大震災・熊本地震物故者慰霊」を執り行った。

鎌倉流ご詠歌の詠唱で開式し、八幡神社と海南神社による清祓いと降神、献饌の儀が厳かに行われた後、「平和の鐘」が突かれる中、参列者一同で黙祷を捧げた。

この後、幼少中高年代表による奉献の儀で祭壇を荘厳。「平和への祈り」では八幡神社と海南神社による祝詞奏上、来賓代表者の玉串奉奠、諸宗教者による祈りが続き、日本基督教団三崎教会と世界救世教いづのめ教団よこすか浄霊センター、各仏教宗派寺院、新宗教（妙智會教団・思親会・立正佼成会）による祈り・読経が続く中、来賓代表者と遺族らの献花が続いた。

妙智會教団と思親会、立正佼成会による読経の中、献花が続いた

来賓を代表し上地克明横須賀市長があいさつの後、「平和のメッセージ」を山崎安里紗さん（立正佼成会）が読み上げた。山崎さんは昨年、教団の国際伝道支援プログラムでハワイの諸宗教者交流に参加し、言葉は十分に通じなくても行動を共にしていく中で心が通じ合い、お互いを理解し、それが平和につながる道であることを訴えた。

記念講演は、日蓮宗ハワイ州ホノルル妙法寺住職の山村尚正氏が行った。声楽家としてのイタリア留学、ミラノの日蓮宗寺院での布教、またハワイの宗教事情などを、さまざまなエピソードを交えて講演した。

今年、ハワイは日系移民150周年を迎えたが、英語しか話せない日系3世が多数を占める時代になり、信徒獲得には新たな布教、寺院運営が迫られていることや、中国・韓国・フィリピンなど多くの移民を受け入れてきたハワイでは異なる文化や宗教に寛容であることなどを説明。

「ハワイではダイバーシティ（多様性）化の歴史が長く、お互いを理解し尊敬することが定着している。日常の生活、行事でも相互尊重する機会が多い」と述べた。

あいさつとして使われている「ALOHA（アロハ）」は「ALO＝○○の前に」「HA＝神の贈り物、いのち」との意味から成り、「ALOHAを相手に向かって言う時、〝あなたのいのちの御前に〟という意味合いを持ち、相手の中の仏性を敬い拝む仏教の『但行礼拝』と相通じるところがある」と解説し、相手を理解し尊重するアロハ・スピリッツについて語った。

山村氏は講演の冒頭、合間に「千の風になって」「オー・ソレ・ミオ」を独唱、講演最後には童謡「赤とんぼ」を参加者と共に合唱し、会場はなごやかな雰囲気に包まれた。

この後、式典実行委員長の押田孝雄氏（顕正寺住職）が「平和への誓い」を読み上げ、「平和の実現には、対立を乗り越え相互理解の努力が不可欠」と訴え、東日本大震災と熊本震災からの復興を祈願しつつ、あらためて平和実現への誓いを示した。

核兵器廃絶テーマに学習会と平和祈願祭

第36回金光教東京平和集会

金光教東京センター（大木光雄所長）は7月16日午前10時半から、東京・秋葉原の金光教館と九段の国立・千鳥ケ淵戦没者墓苑で「第36回金光教東京平和集会」を、「核兵器のない世界をめざして―はじまりは、ひとりひとりの小さな一歩から」をテーマに開催した。

午前に金光教館で催されたプログラム「学びのひろば」は、金光教東京学生寮の寮生2氏が「なぜ核兵器は無くならないのか?」「核兵器廃絶に向けて」をテーマに発表を行った。

核兵器開発の歴史から米ソ冷戦に象徴される軍拡競争、イスラエルや北朝鮮などが核兵器を保有する理由、また核抑止論の有効性への疑問、兵器としての非人道性、核兵器禁止条約や昨年、ノーベル平和賞を受賞した国際NGO・ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）などについて解説。「（核兵器廃絶へ向け）行動を起こすのは私たち一人ひとり」「世界で唯一の被爆国であることを忘れず、核兵器の非人道性を語り継ぐべき」と訴えた。

続いて、祖父の広島原爆被爆体験を語り継ぐことに取り組み始める白神亜礼さん母娘を追ったNHKドキュメンタリー「にっぽん紀行―母と子　はじめて捧げる祈り―戦後70年広島」（2015年放送）を上映した。

この後、白神亜礼さんが登壇し発題。金光教信者である白神さんは番組を振り返りながら、祖父の被爆体験を娘と共に語り継いでいくことの大切さをあらためて強調した。

辻井篤生金光教東京学生寮寮監が「まとめ」を行い、「金光大神」の信心から核問題を考える三つの観点を解説。互いを大神と敬い、氏子同氏が助け合い世を救う「人間観」、罪・悪を「無礼」ととらえる「人間の無礼性の自覚」、過去の戦争体験者も一つの家族であり、歴史はつながっているとの認識を持つ「過去、現在、未来からの眼差し」の3点を示した。そして「一人ひとりの存在は小さいけれど、歴史形成主体です。核兵器のない世界を目指して、共々にここから伝えていきましょう」と呼びかけた。

午後は毎年恒例となった千鳥ケ淵戦没者墓苑までの平和行進を、猛暑による熱中症が懸念されるため、今年は見合わせ、金光教館で東京大空襲の悲惨さ、戦争の愚かさを描いた野坂昭如原作の戦争童話アニメ「ふたつの胡桃」を視聴した。

午後3時過ぎから、千鳥ケ淵戦没者墓苑で「戦争死者慰霊・平和祈願祭」を、大木光雄所長を祭主に執り行った。祭儀では「戦争死者慰霊・平和祈願の詞」を参列者一同で奉唱し、戦闘や空爆で亡くなった御霊に対し、「二度と同じ過ちを繰り返すことがないよう、真の平和実現のために祈りを込めてまいります」と誓った。

千鳥ケ淵戦没者墓苑で大木所長を祭主に戦争死者慰霊・平和祈願祭

天皇代替わりテーマに講演

第31回政教分離訴訟全国交流集会

安倍首相靖国参拝違憲訴訟・関西事務局は6月15日午後2時から、京都市のしんらん交流館で「第31回政教分離訴訟全国交流集会in京都」を開催した。

大阪と東京の弁護士らによる靖国訴訟の裁判報告の後、加島宏弁護士を講師に「2019年代替わり諸儀式の法的諸問題―先の即位・大嘗祭違憲訴訟の経験を踏まえて」をテーマに記念講演が行われた。

講演する加島弁護士

加島氏はまず「今回の（天皇）代替わりは、生前退位に伴うもので、前回とは大きく違ってくる」と前置きした上で、前回の状況を報告。前回は大喪の礼前後に暴力による攻撃と威嚇が頻発し、自身もかなり危険な立場にあったと振り返った。

その状況下で新天皇の即位礼・大嘗祭諸儀式行事に対する違憲訴訟を提訴した。「これらの儀式は宗教儀式であり、これに国費を支出することは政教分離の原則に反するものだから」と述べた。

結果的に一審、二審とも敗訴であったが、二審では判決理由の中で即位礼・大嘗祭の宗教性を一概に否定できないと触れていることから、「裁判所は違憲性判断に踏み込み、政教分離規定違反を指摘した」と一定程度の評価をした。

しかし、今回の代替わりについては、情勢が異なっていることに触れ、「現天皇、新天皇と、昭和天皇に対する国民感情が大きく違う」と指摘し、「今後、違憲訴訟を行う場合は、前回の判決及び判例を精査し、訴訟提起の獲得目標をどこにおくかが焦点」と述べた。

新刊紹介

宗教改革2・0へ ハタから見えるキリスト教会のマルとバツ

松谷　信司　編著

宗教離れや寺院消滅などが語られる現在、キリスト教も例外なく危機感を抱いている。

その中で編著者は、現代日本においてキリスト教を「信じるつもりはないが知りたい」という層が増えていると実感していると述べ、「信じるつもりのない人々には教えない」という教会の態度を疑問視する。マルティン・ルターによる宗教改革から501年が経過したが、このような今日のキリスト教を「改革」するには「腹心の友」ではなく、キリスト教の信者ではない第三者の「ハタから」の視点こそが必要だという。書名の「2・0」には宗教改革のバージョンアップへの思いが込められている。

本書は、編著者が編集長を務めている「キリスト教新聞」と「Ministry（ミニストリー）」誌上において連載された「ハタから見たキリスト教」を一冊にまとめたものである。

「ハタから」というタイトルのごとく、本書で対談やインタビューに登場するほとんどがノンクリスチャンで、哲学者の高橋哲哉氏や内田樹氏、作家の阿刀田高氏や池澤夏樹氏、漫画家の安彦良和氏、仏教者で宗教学者の釈徹宗氏などが登場し、それぞれの立場から見たキリスト教を語っている。聖書へのシンパシーを示し、信者・非信者の橋渡しを行おうとする人、男性中心的な教会のあり方に批判を浴びせる人、キリスト教がもっと日本的な宗教感覚を得るべきだと指摘する人など、多彩な意見が披歴される。

「キリスト教の関係者にとっては耳の痛い指摘も、心温まる慰めの言葉も、力強い叱咤激励も、これからの『発信』や『応答』にとって大事なヒントになるに違いない」と編著者は語る。

（ころから　200頁　A5変形　定価1728円）

ロボット工学と仏教 AI時代の科学の限界と可能性

森　政弘・上出　寛子　著

仏教と縁もゆかりもなかった若手心理学者、上出寛子氏（名古屋大学特任教授）が、仏教哲学の専門家でもあるロボット工学の世界的権威、森政弘氏（東京工業大学名誉教授）との出会いを契機に、一から仏教哲学を学び、ついにはロボット工学系の国際会議において英語で仏教哲学を紹介するようになる――。

本書は、年齢も性別も研究分野も異なる二人の「師弟」間で交わされた3年4カ月、600通を超える電子メールを抽出・凝縮して、時系列に約200通に納めたもの。

森氏の懇切丁寧な「指導」と、上出氏の鋭敏かつ真摯な「学び」によって、思想・哲学としての仏教が学問の領域を超えて自然に伝えられていく。

「論理」を拠り所とする科学者が、「矛盾」をはらむ仏教（宗教）をどのように受容していったのか。また仏教（宗教）の価値観や思考の枠組みを持つ科学者は科学一辺倒の科学者とどのように違うのか、違ってくるのか。

91歳の森氏は、技術の発展や向上のみに邁進する現代の日本社会にあって、それらを担う科学・理工系の人たちが仏教哲学を体得し、研究・開発に活かしていくことによって、はじめて技術が人々を真の幸福に導くものになる―と語る。

AI（人工知能）の技術開発が「心・欲望・悟り」の領域にまで及びつつある今日、理系の研究者や技術者、また宗教者にとっても興味深い思考のやりとりが展開される。

（佼成出版社　512頁　四六判　定価2592円）

暑中お見舞い申し上げます

宗教法人 天心教本庁　教主 天元　羽曳野市古市一―六―八　電話 〇七二九―五六―〇八五五番

パーフェクト リバティー教団　教主 御木貴日止　大本庁 大阪府富田林市新堂二―七二―一　電話(〇七二二)二四―一一一一(代表)

妙智會教団　東京都渋谷区代々木三ノ三ノ三　電話(三三七〇)五四〇三(代表)

宗教法人 三輪神道宏充教本部　管長 吉川允恵　大阪市生野区新今里三丁目二番二十号　電話(六七五一)二七〇九番

kosei 生かされ、生きるチカラ。　立正佼成会　会長 庭野日鑛　理事長 川端健之　〒166―8537 東京都杉並区和田二―十一―一　電話〇三(五三四一)一六一五　http://www.kosei-kai.or.jp

宗教法人 霊波之光教会　総教司令本部

七曜会　理事長 眞塩陽一郎　電話〇三(三四六六)六〇二六

宗教法人 日月神一条　管長 嘉納良樹　吹田市内本町一丁目九の四　電話(六三八一)四一六九番

妙道会教団　会長 佐原慶治　本部〒543―0034 大阪市天王寺区松ケ鼻町四―二四　電話〇六(六七七一)二〇五〇

宗教法人 大和教　管長・教祖 保積敬子　宮城県塩竈市南町六―五　電話(〇二二)三六二―一三九二

宗教法人 良辨教本部教会　〒五八一―〇八一三　大阪府八尾市泉町一丁目一三七の三　電話(〇七二)九九六―四九一六番

月読之命奉斎 榊の葉でみる神占　宗教法人 和光道教団本部　大阪市天王寺区上本町二丁目一の二十三　電話 大阪(六七六一)一四八〇番

公益財団法人 世界宗教者平和会議日本委員会　会長 庭野日鑛　理事長 杉谷義純　〒166―8531 東京都杉並区和田二丁目七番一号 普門メディアセンター三階　電話(〇三)三三八四―二三三七

公益財団法人 庭野平和財団　理事長 庭野浩士　160―0022 東京都新宿区新宿一丁目一六番九号 シャンヴィラカテリーナ5階　電話 〇三(三二二六)四三七一番　FAX 〇三(三二二六)一八三五番

公益財団法人 新宗連　本部事務局　中国総支部　首都圏総支部　四国総支部　近畿総支部　九州総支部　北陸総支部　奥羽総支部　北関東総支部　北海道総支部　中部総支部　東北総支部

新日本宗教青年会連盟　青近連　青北関連　青関連　青九連　青北連　青道連　青四連　青中国連　青中連　青奥連　青東北連

（50音順）